

手軽で安価な防寒アイテムの定番。ネオプレン素材の採用で防水性能も実現 防水・防寒 ネオプレンハンドルカバー

メーカー: 大塚織機資材 ☎06-6499-1011 <http://www.osaka-seiki.co.jp/> 型番: WNHC-03 色: 黒 価格: 3,564円

report ●編集部
photo ●山内潤也



●カフス部（カバーの入り口）にドロコードを備え、サイズを自在に調整可能な機構を採用。グローブの大きさに合わせて裏面をシャットアウトしてくれる



●装着はいたって簡単。本体内部に設けられているレバー用の穴とグリップ用の穴にそれぞれを通し、ミラー共締め用の穴の位置（2カ所所設定されている）が合うならそれも使って固定するだけ。ミラー用の穴の位置がフィットしない場合は、紐をハンドルバーなどに結びつけて緊張を調整する。緩みがしっかりしていることも特徴で、細かい日からの微風が侵入しても心配も少ない。地味にもよるが、薄手のグローブと併用すれば、これだけで冬を乗り切れる可能性も高いのではないだろうか



●ホンダNC750Xに装着し、乗車姿勢をとったところ。入口部分を絞って保温性を高めるための紐が付いているので、グローブをジャケットのサイズに合わせて適切にフィットさせられる。いろいろな条件で手を握き差してしてみたが、万の場合でもこの部分で手が拘束されてしまうようなことはなさそう。裏地は起毛素材を使用し、フーリングと保温性を確保。プレンなデザインで幅広い車種に違和感なくフィットするので、冬のライディングを「両行」にしないたい人試してみる価値は高い

冬道のライディングが辛いのは、走行中に受ける風が常に体温を奪っていくため。特に身体の末端である手は、もともと血の巡りが悪く「冷え」を感じやすくなる。これに加えて、風防などの悪影響を受けにくい。そこをすっぽりと包み込み、防風ならびに保温の効果を実現してくれるハンドルカバーの効能は、ライダーなら容易に想像できるだろう。

実際に使ってみれば感度の低さがわかるのだが、「お蕎麦屋さんのバイクが付ける物」的なイメージがあること、転倒時に手が抜けたら……といったイメージがつきまとうことなどから、特に若年層の間ではメジャーな存在とはいえないのが現状だ。

そんなハンドルカバー事情に「石を投じる可能性を秘めるのが、この「ネオプレン」ハンドルカバー」。ネオプレンとは合成ゴム的一种で、空気や水などの透水性が高く、さらに保温性も備えるため、ウェットスノー状などに使われる素材だ。それをミトン形状に成形し、ハンドルカバーに仕立てた製品である。

装着はいたって簡単。基本は2カ所所に設けられている穴にレバーとグリップ部を通すだけ。さらに脱落防止のため、車体中心側前方にある穴にミラーのねじ部分を差しこんで共締めする。ミラー穴の位置が合わない車種の場合は、ひもでハンドルバーなどに固定する。夏になったら逆の工程で簡単に外せる。

実際に装着して試走してみた。ハンドルカバーは初体験に近いので多少の違和感はあるものの、手元がまったく風の影響を受けない感覚は実に新鮮。袖元もカバーされるので、上着への風の侵入もシャットアウトされ、予想以上の防寒効果を実感した。ミトンタイプなので慣れもあるうちにはスイッチ類の操作性に違和感もあつたが、30分程度で慣れてしまった。

グローブが薄手のものでも防寒のうちは、操作性の向上につながるのもおもしろいだろう。シンプルかつシックなデザインで、スポーツ車に装着しても違和感も小さい。なにより、この快適さこそこの価格で入手できるのは大きな魅力。この冬、試してみても損はないはずだ。



●新指が少し離したミトンタイプなので、慣れないうちはスイッチ類には多少の違和感があつたものの、しばらく走行しているうちにスムーズに操作できるようになった



●裏地に赤のステッチでシックな印象。ネオプレンは肌触り良好で、思わず寒手で重たくなってしまうほど、安全性向上のため、外側に反射材を配しているのも嬉しい特徴だ